PEACE GOURD

”ピース・ガード”「平和の瓢箪」

A9A・YORO

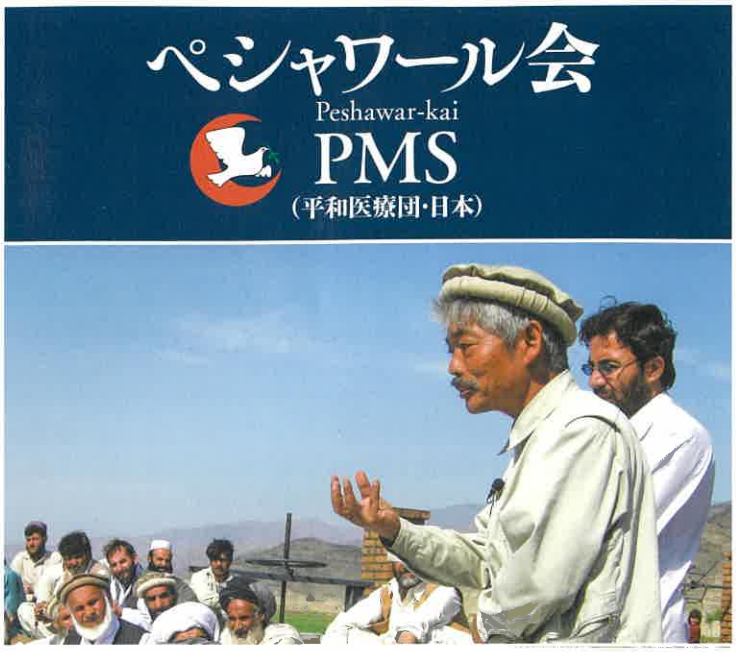
９条の会・養老会報、第42号
2023年7月27日
（部内資料）

中村哲さんの上映会に行ってきました

レポート　９条の会・養老会員　田口ようこ

6月25日江南市民文化会館で、パキスタンとアフガニスタンで35年間人道支援に尽力した哲さんの生き様を追ったドキュメンタリー映画「荒野に希望の灯をともす」を観てきました。私が特に印象に残った部分を紹介します。

◉中村哲医師と共に歩む◉



ペシャワール会公式パンフレットより

・医師として戦時下のアフガニスタンに渡り医療だけではなく、大干ばつで乾いた大地に川の水を引き込む大事業の先頭に立っていた中村医師。「１００の診療所より一本の用水路を」この言葉を心に刻み、自らショベルカーに乗り、用水路建設に従事し続けた。2019年12月４日凶弾に倒れこの世を去った後も、築きあげた９つの用水路により、１万６千ヘクタールが緑化され、アフガニスタンで暮らす65万人もの自給自足を支えている。

・通常、医療ボランティアであれば、治療して薬を配って終わってしまうところを、中村医師はそこで終わらなかった。飲める水、傷口につける綺麗な水があれば、ここの人達は生きて行ける。水が緑を生み、作物を作り、家族揃ってご飯が食べられる。お金のために兵隊に行かなくても良い。もちろん、栄養状態がよくなれば病気もなくなる。そんな思いから無謀とも思われる用水路建設を始めた。

・アメリカのヘリコプターが上空を飛ぶ中でも、人々が生きるために水を引くための作業は続けられた。「彼らは殺すために空を飛び、我々は生きるために地面を掘る」 ⇒２頁へ

町内高田（島田地内）

♪♪　戦後は続くよ　どこまでも　♪♪

⇒1頁より続く

・死にかけた幼児を抱いた若い母親が診療所に来る姿が目立って増えた。干ばつの犠牲者の多くが幼児であった。「餓死」とは空腹で死ぬのではない。食べ物不足で栄養失調になり、抵抗力が落ちる。そこに汚水を口にして下痢症などの腸管感染症にかかり、簡単に落命する。若い母親が死にかけた我が子を胸に抱き、時には何日もかけて歩き、診療所を目指した。生きてたどり着いても、外来で列をなして待つ間に我が子が胸の中で死亡、途方に暮れる母親の姿は珍しくなかった。その姿は、およそ子どもを持つ親なら涙を誘わずにはおれぬものであった。

・中村医師の10歳の次男が悪性の脳腫瘍にかかり、死期が近かった。可愛い盛りである。親の情として「代わりに命をくれてやっても」とさえ思う。少しでも遊びに連れて行き、楽しい思いをさせたかった。数ヶ月後、次男は家族に見守られながら息を引き取った。空爆と飢餓で犠牲になった子の親たちの気持ちがいっそう分かるようになった。

紹介したいエピソードは、まだまだ一杯あり書ききれません。「観念の戦いは不毛である。平和は戦争以上に積極的な力でなければならぬ。」「裏切られても裏切り返さない。誠実さこそが、人々の心に触れる。」「暴力に対して暴力を持って報いるのは我々のやり方ではない。平和が日本の国是である。我々は建設的な人道支援を忍耐を持って継続する。」「平和とは理念ではなく現実の力なのだ。」等、哲さんが遺した数々の言葉は、身をもって実行したからこそ私たちの心に響きます。

「困っている人がいたら手を差し伸べる。それは普通のことです。」と哲さんは言いました。哲さんの活動を支えている国内外のボランティアの方々も共通した考えだと思います。私も微力ながらこれからも支援を続けていきたいと思います。

ペシャワール会事務局

〒810-0003　福岡市中央区春吉1-16-8 VEGA 天神南 601号
電　話　092-731-2372　／　FAX　092-731-2373
E メール　peshawar@kkh.biglobe.ne.jp
ホームページ　http://www.peshawar-pms.com
【ペシャワール会会長・PMS総院長】村上　優

右の上映チケット、前売り￥1,200は、世話人　問山（西濃民主商工会）でも若干扱います。ご希望の方は電話をお願いします。

090-2348-0719

新美南吉の生きた時代～文学と戦争と平和～《ピースあいち》に行きました！

報告：佐竹　哲（世話人）

新美南吉は1913(大正2)年7月、愛知県知多郡半田町（現在の半田市）に生まれ、幼くして母を亡くし、実母の実家に養子に出されました。青年期も病気がちで1943(昭和18)年に29歳でこの世を去りました。短い生涯ながら、彼が残した文学作品は『ごん狐』、『手袋を買いに』等の名作が多く、日本の代表的な児童文学者です。私も新美南吉の童話は子供の頃より大好きで、大人になってからも作品の奥深さを感じ、何度も読み返してきました。しかし、南吉の生きた時代の大半は、戦時下だったのです。多くの作品は戦争色のないものばかりで、南吉が戦争をどのように感じ、苦悩していたかは、私は想像したことがありませんでした。

新美南吉（記念館HPより）

この夏、名古屋市名東区のピースあいちで、「新美南吉の生きた時代～文学と戦争と平和」という企画展が9月9日まで開催されています。私は今月19日に家族と一緒に観覧することができました。展示品の撮影は禁止されているので、メモをした南吉の日記を紹介します。

「日本の子供達が十人が十人まで兵隊好きであるということ、日本の多数の人が殆どミリタリストであるということは、明治の頃の教育、又は国家思想、ミリタリズム宣伝の結果だと思われる。」（1938年11月18日）

「万歳三唱の声が聞えた。みんな日本の良い国であることを納得し、支那（しな）はやっつけられていること、米国も英国も恐るるに足りないことを納得し、ついに会を終（おわり）をつげたのだ。現代日本の風景、何という暗い、非文化的な。」（1940年２月15日）

日記からは、当時の軍国思想に対する南吉の強い批判と憂いが感じられます。

また、『張紅倫』という南吉の童話作品が紹介されていました。あらすじを記します。中国に駐留している日本部隊の青木少佐がある夜中、見まわり中に古井戸に落ちてしまい、助けを呼んでも誰もいません。死を覚悟し、気を失ったところを中国人の張さんに助け出されます。張さんの家は貧しい農家で十三、四歳の息子・張紅倫と二人暮らしでした。青木少佐の体が回復するまで四、五日、お世話をしてくれました。しかし、他の村人が、少佐をロシア兵に売ろうしたので張さんはあわてて少佐を逃がしました。少佐は、張家を出ていく際、お礼に張紅倫に自分の懐中時計を渡しました。それから十年後、戦争が終わって青木少佐は日本に帰り、会社勤めになりました。ある日、青年の中国人が会社の事務所に文具を売りに来ました。少佐は青年から万年筆を買い、その際に青年の手元の懐中時計を見つけました。少佐は青年に「きみ、張紅倫というんじゃないかい」と尋ねましたが、青年は否定しました。後に一通の手紙が届きます。手紙には、青木少佐が軍人の身で敵国の中国人に助けられたことが他の日本人に知られると少佐に都合が悪くなると思い、張紅倫であることを言わなかったこと、明日、中国に帰ることが書かれていました。この童話は戦時中の作品です。この中国人と日本人の素敵な出会いの物語には、南吉の平和への願いが込められています。

第65回岐阜県母親大会から、前川喜平さんの講演を聞いて

西濃民商だより第1028号の掲載分から抜粋しました。

前川喜平　氏

去る６月２５日（日）飛騨古川で開かれた第65回岐阜県母親大会に参加してきました。会場は飛騨市文化交流センター。諸般の事情で午後からの全体会のみの参加になりましたが、岐商連婦人部でお見掛けする仲間の皆さんともお会いできました。

★全体会、前川喜平氏の講演

前川喜平さんは現代教育行政研究会代表という肩書ですが、前文科省事務次官といったほうが良くわかると思います。

前川さんは官僚としていくつかの内閣に仕えてきたが、安倍内閣あたりから自民党内閣がおかしくなってしまったとの嘆きを交えながら憲法、教育、家族、平和…など多岐にわたるお話をされました。以下、主な内容です。

当日
飛騨市文化交流センターにて

▼安倍さんは公務員を、公僕から内閣の下僕に変えてしまった。
▼２０１５年９月１８日、私（前川）は現役文科官僚（審議官）でありながら仕事を終えた後、こっそりと安保法制反対のデモに参加した。でないと一生悔いが残ると思った。
▼今の自民党内閣には安倍さんの祖父、岸信介氏のＤＮＡが息を吹き返している。
▼個人より国家が大事、国家の単位は家族、家族の長はお父様、日本国は一つの家族、日本国のお父様は天皇。こんな世界観が多くの国会議員を支配している。
▼市民運動では演説調、断定調の言い回しは禁句。共感に基づく軽い疑問形で語りかけよう。

報告者：９条の会・養老会員　問山光惠

◇今後の活動予定と各団体のイベント予定◇

★原爆と人間展　　～2023 平和を語り継ぐ夏～　　→別紙チラシあり
日時：7月29日（土）・30日（日）　9時～15時
場所：スイトピアセンター３Ｆ展示室
主催：岐阜県被爆者の会

★ ぎふ平和美術展
日時：8月10日（木）～15日（木）10時～16時
場所：ぎふメディアコスモス「みんなのギャラリー」
主催：岐阜平和美術展実行委員会　Tel.0575-28-5177（伊藤薫 方）

編集後記

暑中お見舞い申し上げます。
今年もまた暑さ厳しき季節を迎えいかがお過ごしでしょうか。これから夏本番、くれぐれもご体大切に、無理をされませぬようお願い申し上げます。

さて７月の世話人会では、コロナ再拡大の情報の中、実出席を伴う企画をどうしよう？との思案のまま具体的な結論には至らず、次回までに何かを考えて来ようの段階で留まっています。本会報では▼映画「荒野に希望の灯をともす」上映会の報告▼岐阜県母親大会の報告▼ピースあいち「戦争を考える企画展」の報告の三題としました。

世話人　問山尚義

連絡先
「９条の会・養老」世話人
090-9183-0444 中野一美（代表）
090-9894-0444 佐竹　哲
090-2348-0719 問山尚義
090-8733-0090 禿　憲正
fax(問山)
0584-71-8746
E-mail(問山)
toiyama@ninus.ocn.ne.jp